

ルリミノキ *Lasianthus japonicus* Miq.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 11。暖地性の低木で、伐採等により生育地が減少している。

【形態】

常緑性の低木。高さ 1~1.5m になる。葉は対生し、長さ 5~15mm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 7~15cm、幅 2~4cm、先端は鋭尖頭、基部は鋭形、やや厚い革質で全縁、表面は無毛で光沢があり、裏面脈上に短毛が散生する。花期は 5~6 月、花は葉腋から出る短い集散花序に 2~4 個つき、下向きに咲く。花冠は白色で高杯形、長さ約 1cm、先端は 5 裂し、裂片は卵形で鈍頭、長さ約 4mm である。果実は液果で球形、直径約 6mm、晩秋にりり色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 43420, 1993-5-29)、8 鳳来北東部 (村松正雄 27873, 2013-9-22)、10 鳳来北西部 (小林 55230, 1994-11-23)、12 新城 (小林 55168, 1994-11-19)、13 豊川 (芹沢 82613, 2007-11-7)。西：30 岡崎南部 (芹沢 69235, 1994-5-23)。

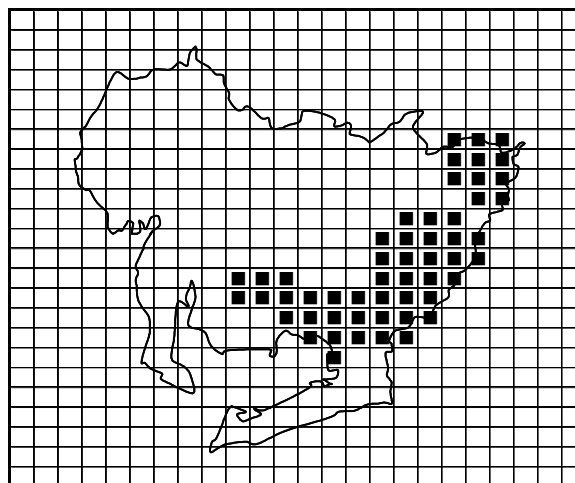
【国内の分布】

本州 (東海地方、紀伊半島、中国地方)、四国、九州、琉球 (沖縄島)。

【世界の分布】

日本、台湾北部、中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

暖地の照葉樹林や二次林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河では数カ所に生育している。東三河以外では岡崎南部の山中八幡宮社叢に生育しているだけである。この場所は、県の自然環境保全地域として保全が図られている。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。社寺林に生育している場合は、日常的には比較的安全であるが、社殿改修などの際に伐採されることがあるので、注意が必要である。

【特記事項】

和名は、果実の色による。

【関連文献】

保木本 I p.58, 平木本 II p.202, 平新版 4 p.280, SOS 旧版 p.74, SOS 新版 p.71,73.